

教育・研究から学生・卒業生の活躍まで幅広く伝える

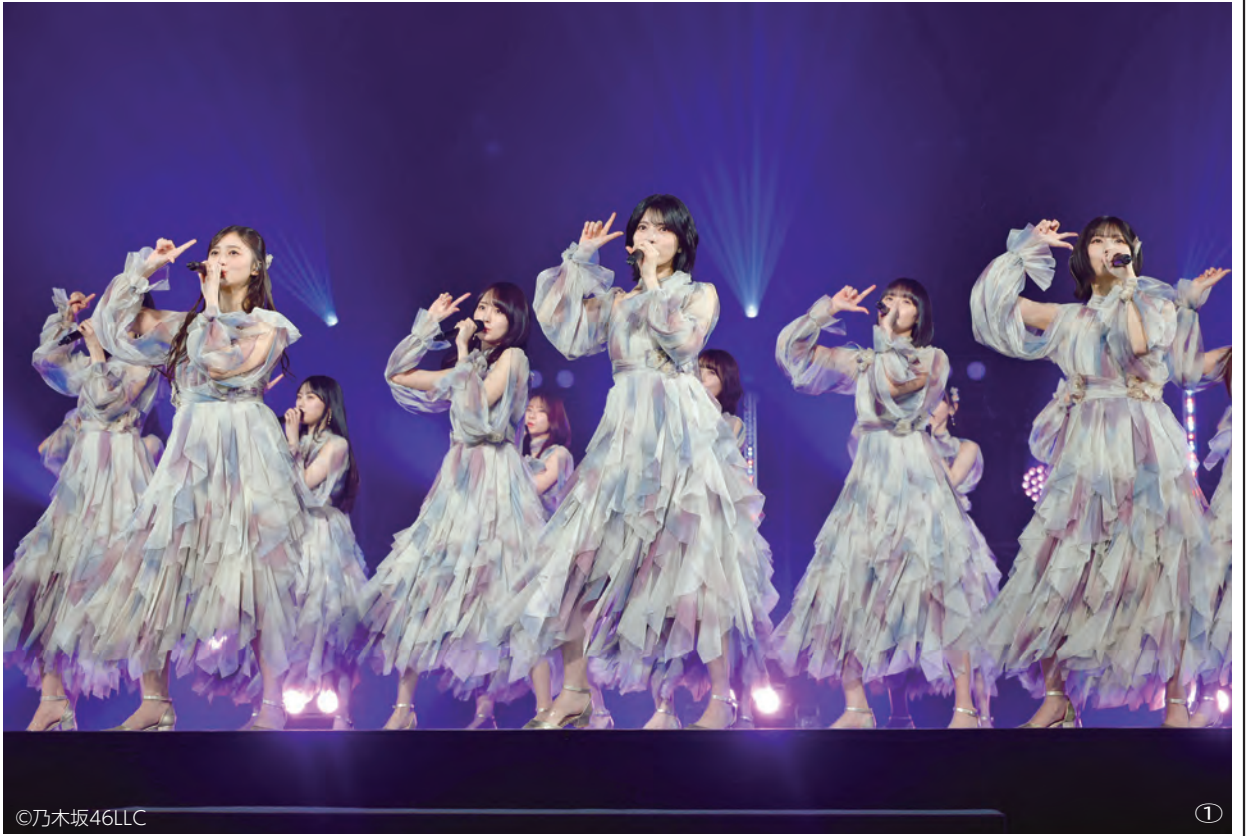
NNUstyle

日本大学広報

https://www.nihon-u.ac.jp

No.841

編集・発行
日本大学広報部広報課
〒102-8275 東京都千代田区九段南 4-8-24
電話：03(5275)8132 直通



①入学式でサプライズゲストとして乃木坂46が登場②日本武道館での入学式③開講式(法学部)④新入生学外研修(工学部)⑤新入生歓迎スポーツフェスティバル(スポーツ科学部)⑥日藝賞授賞式(芸術学部)

令和8年度の日本大学入学式は4月8日、東京・北の丸公園の日本武道館で行われた。大学院・学部・通信教育部・短期大学部の計1万7988人が本学学生として第一歩を踏み出した。大貫進一郎学長の式辞、林真理子理事長の祝辞に続き新入生代表2人がそれぞれの宣誓を行った。

式の後半ではサプライズゲストとして女性アイドルグループの乃木坂46が登場。5曲を披露し、メンバーで今年3月に芸術学部を卒業した林瑠奈さん(写真前列中央)らが入学生を激励した。

NU CLOSE UP

日本武道館で新入生が第一歩

各学部でも個性豊かな歓迎行事

一方、入学式に先立ち各学部では、開講式をはじめ多彩な歓迎イベントが行われた。

スポーツ科学部では7日、新入生歓迎のスポーツフェスティバルが行われた。10クラス315人が参加し、王様ドッジビー(フリスビーを使ったドッジボール)や8やロボット開発実証施設などの種目で競った。新入生は「作戦を話すうちに仲良くなった」と楽し

一方、入学式に先立ち各学部では、開講式をはじめ多彩な歓迎イベントが行われた。

工学部は、新入生に同学部がある福島県内の伝統、文化、専門分野の現場に触れてもらうと7日(成19年卒)と塚本直毅さん(同)にトロフィーと賞状が手渡された。同賞は活躍が顕著な卒業生を表彰するもので、日藝のブランド力を高め、新入生に夢を与える行事になっている。



日本大学学長
日本大学短期大学部学長
大貫進一郎



学校法人日本大学理事長
林真理子

ホンモノに触れ、広範な知見を

入学式式辞(要旨)

今社会は、現実空間と仮想空間が融合する「Society 5.0」へと向かっており、AI全盛期ともいえる時代へと突入しています。そこにはいかにも正しそうなそがまきれ込むことが多くあり、その真偽を見抜く確かな力を持つことは不可欠です。情報に惑わされないために必要なのは、第一の鍵は、「特定の分野だけに偏らない広範な知見」と「客観的に一歩引いて見つめる姿勢」です。第二に必要なのは、「多様な直接経験」すなわち「ホンモノに触れること」です。自らの手を動かして実証し、AIが持ち得ない、五感を伴う「直接経験」を蓄積してください。

大学での学びには、自動で高みへ運んでくれるエレベーターはありません。着実に、一歩ずつ、意欲をもってこの上り坂を駆け上がってほしい。その先には、決してAIには描けない、皆さん自身が「自主創造」した真新しい景色が広がっているはず。皆さんの輝かしい将来、そして新しい日本大学の物語を、今日ここから共に拓いていきましょう。

学ぶことの素晴らしさ、楽しさ

入学式祝辞(要旨)

令和8年度という年は、日本大学が長い昏迷の時を経て、新しいスタートを切った年でもあります。日本大学で学び、語り、友人を見つけ、有意義な学生生活を送ってください。そして、どうか学ぶことの素晴らしさ、楽しさを知っていただきたいと思えます。

本学で優れた研究成果を上げた研究者を表彰した際、受賞者の理工学部の教授がこんなことをおっしゃったのです。「ある物質に対して実験をしたところ、思わぬ結果が出た。自然はこのような現象を許しているのかと感動した」。私は、この言葉に非常に感動しました。なんと深い、探求することの本質を突いた言葉でしょう。皆さんには、これからの学生生活、このような経験を積んでいただきたいと願っております。

世の中は美しいことから、素晴らしい言葉で満ちています。皆さんには、日本大学でこうしたことを見つける名人になっていただきたい。日本大学も皆さんも、とびきりのスタートを切りましょう。

7年度卒業式

1万6432人が門出迎える

日向坂46のスペシャルライブも

令和7年度の日本大学卒業式が3月25日に日本武道館で行われ、1万6432人が桜門を巣立った。卒業生総数は約130万人となった。



Seed & FlowerLLC

大学院、学部、通信教育部、短期大学部を午前と午後の2部に分けて実施し、芸術学部を卒業する奈良井日南さんと染谷芽衣さんが司会を担当した。それぞれ前半に大貫進一郎学長が式辞を、林真理子理事長が祝辞を述べ、続いて学位記と学長賞の授与が行われた。

大貫学長は「日本大学で培った誇りと絆を胸に、新しい時代を切り開いていってほしい。皆さんの輝かしい未来と大いなる飛躍を心より祈念いたします」と式辞で述べた。

林真理子理事長は祝辞で「この世は理不尽に満ちていますが『かかってこい』

芸術学部

MFAを新設

作品を自身でプロデュース

芸術学部は作品制作した後に学ぶ、修士課程MFA(Master of Fine Arts)の学位コースを大学院芸術学研究科に新たに創設した。従来のMA(Master of Arts)と合わせて今年度101人が入学した。

きつと多くのことを乗り越えられるだろうか、それを楽しむことができる」と信じています」と述べた。

後半にはサブライズゲストとして女性アイドルグループの日向坂46が登場した。写真。メンバーの金村美玖さんは芸術学部出身。「クリフハンガー」など6曲を披露し式典を盛り上げた。

人、医学8人、生物資源科学2人、獣医学2人。これにより学位授与者は7493人、課程修了による授与者も含めると1万3811人となった。

博士15人に学位

令和7年度の第2回学位授与式が3月9日、日本大学会館で行われ、論文提出による博士の学位が15人に授与された。専攻分野は工学3

受賞者を代表して原由起さん(医学)が大貫学長から記念品を受け取り、「博士の学位を授与されたことを大変光栄に存じます」と謝意を伝えた。

鳴津さんをゲストに

ようこそ！理事長室へ

林真理子理事長が本学にゆかりのある人物を招く「ようこそ！理事長室へ」のゲストに第174回直木賞を受賞した法学部卒の鳴津輝さんを迎え、このほど受賞者同士の対談が実現した。本学卒業生の直木賞受賞は林

対談の様子は3月24日から配信されている。対談は、冒頭に林理事

長から鳴津さんにお祝いの花束が贈られ、終始和やかなムードで行われた。写真。

鳴津さんが本学法学部に進学したのは「水道橋が家から通いやすく、高校の仲の良い友人たちが進学することに引きずられた」と軽い動機だったことを披露。入学後はテニスサークルに加入する一方、学内でも真面目な学生が集まる刑事訴訟法のゼミナルに入り「全く違うタイプだったが、どちら



清野氏に名誉学位贈呈

「松戸歯の学びが研究の軸」

日本の学術賞として「院賞」を受賞した清野宏也権威のある「日本学士

位贈呈式が4月14日、日本大学会館で行われ、大貫進一郎学長から名誉歯学博士の学位が贈られた。写真。

清野氏は昭和52年に松戸歯学部を卒業。国内外の大学や研究機関を舞台に「歯のワクチン研究を

原点として粘膜炎疫学の創生と粘膜炎ワクチンの開発を行うなど、粘膜炎疫学を基盤とした教育・研究に貢献したことが高く評価されている。

式にはアカデミックガウンと帽子という正装で臨み、参列者の拍手で迎えられながらレッドカーペットを歩いて登壇した。大貫学長は清野氏の研

究成果を紹介し、『自主創造』を真に体現し、本学の教育振興に大いに寄与する」と功績をたたえた。

清野氏は「日本大学高校、松戸歯学部と計9年間日本大学にお世話になった。松戸歯学部で学んだ口腔と全身を一体として考える『メディコデンタル』などの先進的な取り組みは、のちの私の研究の軸になった」と謝辞を述べた。

名譽学位に続いてフリードや記念品、花束も贈られた。

清野氏は「日本大学高校、松戸歯学部と計9年間日本大学にお世話になった。松戸歯学部で学んだ口腔と全身を一体として考える『メディコデンタル』などの先進的な取り組みは、のちの私の研究の軸になった」と謝辞を述べた。

清野氏は「日本大学高校、松戸歯学部と計9年間日本大学にお世話になった。松戸歯学部で学んだ口腔と全身を一体として考える『メディコデンタル』などの先進的な取り組みは、のちの私の研究の軸になった」と謝辞を述べた。

清野氏は「日本大学高校、松戸歯学部と計9年間日本大学にお世話になった。松戸歯学部で学んだ口腔と全身を一体として考える『メディコデンタル』などの先進的な取り組みは、のちの私の研究の軸になった」と謝辞を述べた。

付属校ニユース0

日本大学高

英検1級に2名合格

スーパースターバルクラス所属の生徒2名が、実用英語技能検定1級に合格した。同クラスでは、その他34人の約3分の1が準1級に合格。全員が2級以上を取得している。

同クラスは英語力を上げつつ、英語をツールにさまざまな分野に学びを広げるクラスであり、この力を武器に世界に羽ばたいてほしい。

鶴ヶ丘高

豪州の高校と交流

4月にオーストラリアのジロング・カレッジの生徒が来校し、サッカー部と国際交流を行った。本校の生徒主体で企画・運営。前半は書道などの日本文化体験やゲームなどのレクリエーションで親睦を深めた。後半は両校をミックスしたチームで、サッカーの試合を実施。言葉を交わさずともスポーツを通じて心を通い合わせ、国境を越えた一体感を味わう充実した時間を共有した。

RINGS始動

本校は隣接する文理学部の次世代社会研究センター(RINGS)と産官学連携の探究活動を実施している。毎年さまざまな研究テーマに取り組みしており、今年度も意欲的に参加している。

3月26日から28日に石川県で開催された第41回全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会で、大桃洗人さん(2年)が男子94kg級で優勝し、都元亮助さん(同)が同79kg級で11位となった。全国の舞台で力を発揮した。

全国選抜で快挙

藤沢高

豊山女子高

豊山女子高

豊山女子高

豊山女子高

豊山女子高

豊山女子高

三島高

時差登校を導入

本校は令和8年度から時差登校を導入した。コースごとに登校時間を設定し、始業時間を1時間遅らせる一方、終業時刻を統一。大規模校である本校だからこそ、朝の交通混雑緩和など、社会への貢献を期待している。



豊山女子高



明誠高

ダンス部全国3連覇

ダンス部は、4月18日に東京都の両国国技館で開催された「マイナビHIGH SCHOOL DANCE COMPETITION 2026 FINAL」のLARGE部門で3連覇を達成した。全国から強豪校が集まる中、磨き上げた表現力と迫力ある演技で会場を魅了した。部員たちは支えてくれた方々への感謝を口にし、喜びを分かち合った。



豊山女子高

生産工学部

生産実習が優秀賞

文科省のキャリア形成支援表彰で



企業で就業体験する学生(右)

文部科学省が実施する「大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰」の令和7年度の優秀賞に、生産工学部の「生産実習」が選ばれた。本学の受賞は初めて。

受賞した「生産実習」は3年次共通の必修・通年科目で、個別最適な就業体験ができるように自治体や企業等約1000の受け入れ先を確保し、約1600人の学生が2週間にわたって実務に近い経験を積む。独自のマッチングシステムを活用し、教員、学生、受け

入れ先の3者がキャリア開発状況を可視化、学生一人一人に最適な実習機会を提供。また、実習体験を後輩に共有する仕組みも整備している。

評価されたのは学部全体という大規模な就業体験に加え、事前と事後教育を含む濃厚なカリキュラムを採用している点も大きい。事前に自己分析とスキルの把握を徹底し、事後は現場経験を言語化して、報告書の作成や実習内容の発表を行う。

就職指導担当の細川利典教授は「こうした取り組みがミスマッチを予防し、本学部の特徴である圧倒的な就職率の低さに

つながっている」と話している。

同表彰は、就業体験など学生のキャリア形成支援活動で他大学や企業のモデルになり得る優れた事例を表彰するもので、7年度は46件の申請から最優秀賞1件、優秀賞3件、選考委員会特別賞1件が選ばれた。

評価が難しかったが、研究グループは精度の高い診断や安全な治療につながる」と期待している。

新検査法は、320列のエリアディテクタCTと呼ばれる広範囲を一度に撮影できるCT装置を使い、造影剤を流しながら小型犬や猫などの先天性心疾患はこれまで詳細な

小型犬の心奇形「見える化」に成功

診断精度を飛躍させる新手法

日本大学動物病院の竹田瑞基研修医、塩澤直子獣医師、石川智恵子獣医師、生物資源科学部獣医学科の合屋征二郎専任講師(写真)の研究グループは、心奇形を持つ小型犬や猫に対し、コントラストが強調されたCT画像を確実に取得できる新

検査法を開発し、直径わずか2・7ミリの動脈管の開口部を明瞭に描き出すことに成功した。

小型犬や猫などの先天性心疾患はこれまで詳細な

実現した。開口部の大きさや形状のほか、血液の流れが可視化できる点でも優れている。

小型犬でよく

7年ぶりに対面形式で留学説明会を開催

本学学生を対象とした留学説明会が、4月18日、日本大学会館で開催された。対面形式で実施するのは令和元年以来、7年ぶり。

留学に興味のある約300人の学生が参加し、留学経験者の話などに熱心に耳を傾けていた。

説明会は3部構成で行われ、1部では本学の留学の概要や流れに



加え、英国のケンブリッジ・サマー・スクール、オーストラリアのニューカッスル・グローバル研修の二つの短期海外研修を紹介。

さらに米国、英国、オーストラリア、ドイツ、フランス、韓国、中国、台湾等の協定校に約1年間留学できる交換留学のほか、派遣留学や認定留学など各制度の説明があった。

2部は学外の「SAF

留学プログラム」や、選抜に利用されることの多い英語検定試験「TOEFL」を説明。

3部は個別相談ブースを設け、留学経験者や協定校からの交換留学生などとのフリートークセッションを実施した。

参加した学生からは「ホームページだけでは得られないリアルな様子が分かった」「留学へのハードルが下がり、モチベーションが上がった」との声が聞かれた。

留学説明会はコロナ禍もあって昨年度までオンライン形式で行われていた。

志願者11万2312人

法と生産工が大幅増

本学の令和8年度一般選抜の志願者総数(短期大学部含む)は、募集人員7115人に対し

11万2312人となり、令和2年度以来6年ぶりに10万人を超えた。前年度に比べて21・4%増と2年連続で増えたほか、16学部がプラスになったのも2年連続。一連の不祥事以前の水準に回復した。

学務部入課は今年度的大幅増について「これまで取り組んできたガバナンス改革や、ブランド

付属校「ユース②」

山形高
ボクシングで全国3位

3月の全国高等学校ボクシング選抜大会男子ピン級で、古沢蓮音くん(2年11当番)が見事3位入賞を果たした。昨年度の夏のインターハイや秋の国民スポーツ大会では、1回戦敗退という悔しい結果だったが、持ち前のパUNCH力を生かした「攻めのボクシング」で相手を圧倒し、躍進を遂げた。

次の目標はインターハイでの金メダル。最高の結果を目指し、今日も厳しい練習に励んでいる。

2日間にわたり、記念体育館で校歌・応援歌練習を実施した。全学年が一堂に会して練習を行うのは、令和元年以来7年ぶりとなった。

1日目は合唱部を中心に校歌・応援歌練習を行い、2日目は野球部を中心にメガホンを使って全校応援の練習。熱気と活気に包まれ、本校の伝統や団結力を感じさせる2日間となった。

藤沢小
種から始まる学び

本校は生物資源科学部と連携した取り組みとして、4年生以上を対象に農場実習を行っている。

今年度も6年生の実習が始まり、枝豆とトウモロコシの種をまいて苗を育てその苗を畑に植える「定植の作業を行った。児童たちは種の大きさや形を観察し、苗が折れないように優しくそっと植え、普段の教室ではできない実体験を通じた学びの面白さに、いつの間にか夢中になっていた。

千葉日大一高
サッカー部が4連覇

サッカー部が船橋市春季市民大会で優勝し、4連覇を達成した。冬季はグラウンド改修工事の影響で、思うように練習できない期間が続いたが、限られた環境の中で練習内容を工夫し、チーム力を高めてきた。

日頃からプレーでできることへの感謝を大切に、74人の大所帯が一体となって取り組んでいる。昨年度は夏の市総体も制しており、今年も優勝、そして連覇を目指している。

千葉日大一高
観劇で広がる想像力

創立40周年記念事業として、全校児童が劇団四季「バック・トゥ・ザ・フューチャー」を観劇した。

事前に映画を見ていた児童も多く、タイムトラベルの演出に大興奮。歌や踊りと舞台装置の工夫に歓声が上がリ、演劇の魅力と想像力の大切さを学ぶ良い体験となり、「また見た」という声が多く聞かれた。

日大一高
高校演劇アワードで受賞

3月21日に岩手県和賀郡の西和賀町文化創造館銀河ホールで行われた「いわて銀河ホール高校演劇アワード」に演劇部が出場し、優秀演出賞と最優秀演技賞を受賞した。全国から公募で選ばれた5校が、劇作家がこの大会のために書き下ろした同じ課題戯曲を演じ、演出の違いのみで勝負する。3年生が中心となり、唯一無二の作品に仕上げた。出場校と共に大会2日前から現地入りして過ごした濃密な時間を

東北高
7年ぶりの全校練習

本校は4月27、28日の

幼稚園
交通安全講習会を開催

自転車通園が半数を超える本園は、4月の法改正を受け、4月14日と22日に狹窪警察署員を招いた交通安全講習会を開催した。

新ルールを親子で守り、無事故で安全に通園するための試みで、地域の子育て世帯にも参加を呼び掛けて実施。署員の丁寧な解説に、保護者らが熱心に耳を傾ける姿が見られた。今後も地域の安全意識向上に努めている。

千葉日大一高
交通安全講習会を開催

自転車通園が半数を超える本園は、4月の法改正を受け、4月14日と22日に狹窪警察署員を招いた交通安全講習会を開催した。

新ルールを親子で守り、無事故で安全に通園するための試みで、地域の子育て世帯にも参加を呼び掛けて実施。署員の丁寧な解説に、保護者らが熱心に耳を傾ける姿が見られた。今後も地域の安全意識向上に努めている。

千葉日大一高
交通安全講習会を開催

自転車通園が半数を超える本園は、4月の法改正を受け、4月14日と22日に狹窪警察署員を招いた交通安全講習会を開催した。

新ルールを親子で守り、無事故で安全に通園するための試みで、地域の子育て世帯にも参加を呼び掛けて実施。署員の丁寧な解説に、保護者らが熱心に耳を傾ける姿が見られた。今後も地域の安全意識向上に努めている。

千葉日大一高
交通安全講習会を開催

自転車通園が半数を超える本園は、4月の法改正を受け、4月14日と22日に狹窪警察署員を招いた交通安全講習会を開催した。

新ルールを親子で守り、無事故で安全に通園するための試みで、地域の子育て世帯にも参加を呼び掛けて実施。署員の丁寧な解説に、保護者らが熱心に耳を傾ける姿が見られた。今後も地域の安全意識向上に努めている。

千葉日大一高
交通安全講習会を開催

自転車通園が半数を超える本園は、4月の法改正を受け、4月14日と22日に狹窪警察署員を招いた交通安全講習会を開催した。

新ルールを親子で守り、無事故で安全に通園するための試みで、地域の子育て世帯にも参加を呼び掛けて実施。署員の丁寧な解説に、保護者らが熱心に耳を傾ける姿が見られた。今後も地域の安全意識向上に努めている。

千葉日大一高
交通安全講習会を開催

自転車通園が半数を超える本園は、4月の法改正を受け、4月14日と22日に狹窪警察署員を招いた交通安全講習会を開催した。

新ルールを親子で守り、無事故で安全に通園するための試みで、地域の子育て世帯にも参加を呼び掛けて実施。署員の丁寧な解説に、保護者らが熱心に耳を傾ける姿が見られた。今後も地域の安全意識向上に努めている。

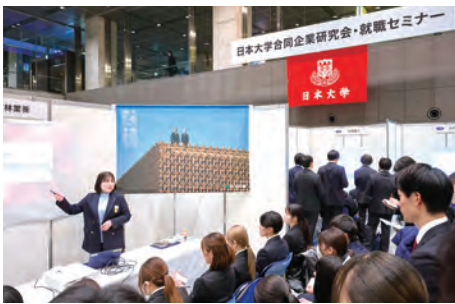
千葉日大一高
交通安全講習会を開催

自転車通園が半数を超える本園は、4月の法改正を受け、4月14日と22日に狹窪警察署員を招いた交通安全講習会を開催した。

新ルールを親子で守り、無事故で安全に通園するための試みで、地域の子育て世帯にも参加を呼び掛けて実施。署員の丁寧な解説に、保護者らが熱心に耳を傾ける姿が見られた。今後も地域の安全意識向上に努めている。

207企業・団体が集結

本学最大の就職支援プログラム



本学最大の就職支援プログラムである「合同企業研究会・就職セミナー」(校友会後援)が3月3日、東京国際フォーラムで開かれ、学生3576人が参加した。製造、金融、流通、サービス、ITなど幅広い業種の計207の企業・団体がブースを設け、午前10時から午後4時まで、1回当たり30分の説明会を計8回実施した。

あいにくの雨にもかかわらず午前9時過ぎからリクルートスーツに身を包んだ学生たちが続々と会場に到着。人気企業・団体のブースでは、用意された椅子に座りきれない学生が立ったまま熱心に説明に聞き入る姿も見られた。写真。

新入社員への定着に向けた取り組みとして、初任給のほか年間休日数、育児支援制度など福利厚生の充実ぶりをアピールする企業・団体が目立った。

危機管理学会の学生は知名度が低くとも高収益の企業があることが分かり、安定した収入が得られることに

位置するサバ州。同州観光局と協力し、自然豊かな同州で観光振興などに注力する。国際関係学部が持つ「国際関係」や「観光・環境教育」の知見を活用し、地域住民の技能向上や収入創出を目指す。

同学部の鈴木和信教授が元JICA職員であることから今回の連携が実現。派遣は1〜2年の長期が3人程度、1カ月〜1年未満の短期が4人程度を想定し、選考を経て令和9年度から実施する計画だ。

渡邊武一郎学部長は「本学部は創設以来、海外で活躍する人材の育成

国家試験合格発表

令和7年度の医師や薬剤師など国家試験の合格者が発表された。

【医師】
医学部から128人が受験し、107人が合格した。合格率は83.6% (前年度92.4%) だった。全国の受験者は9980人、合格者は9139人、合格率は91.6% (92.3%)。

【歯科医師】
歯学部から166人が受験し、77人が合格。全国の受験者は1万2000人、合格者は1139人、合格率は91.6% (92.3%)。

【薬剤師】
薬学部から283人が受験し、176人が合格。合格率は62.2% (71.7%)。全国の受験者は1万2000人、合格者は1139人、合格率は91.6% (92.3%)。

【看護師】
医学部附属看護専門学科から69人が受験し、61人が合格。合格率は88.4% (93.8%) だった。全国の受験者は5万9614人、合格者は5万2666人、合格率は88.3% (90.1%)。

【歯科衛生士】
歯学部附属歯科衛生専門学科からは27人が受験し、15人が合格。合格率は55.6% (78.9%)。全国の受験者は2396人、合格者は1573人、合格率は65.7% (78.9%)。

【臨床工学士】
工学部から新卒者32人が受験し、9人が合格。合格率は28.1% (51.9%)。全国の受験者は2396人、合格者は1573人、合格率は65.7% (78.9%)。

【歯科技工士】
歯学部附属歯科技工専門学校から15人が受験し、11人が合格した。合格率は73.3% (58.3%)。全国の受験者は1433人、合格者は980人、合格率は68.4% (71.9%)。

【獣医師】
生物資源科学部から新卒者110人が受験し、84人が合格した。合格率は76.4% (76.2%)。全国の受験者は1433人、合格者は980人、合格率は68.4% (71.9%)。

とても魅力を感じた」と話していた。また、商学部の学生は「就職は少し前まで他人事だと思っていたが、真剣に考えるよい機会に訪れた。

午後には大貫進一学部長、林真理子理事長が視察に訪れた。

774人、合格者8749人、合格率68.5% (68.9%)。

【獣医師】
生物資源科学部から新卒者110人が受験し、84人が合格した。合格率は76.4% (76.2%)。全国の受験者は1433人、合格者は980人、合格率は68.4% (71.9%)。

【歯科技工士】
歯学部附属歯科技工専門学校から15人が受験し、11人が合格した。合格率は73.3% (58.3%)。全国の受験者は1433人、合格者は980人、合格率は68.4% (71.9%)。

【臨床工学士】
工学部から新卒者32人が受験し、9人が合格。合格率は28.1% (51.9%)。全国の受験者は2396人、合格者は1573人、合格率は65.7% (78.9%)。

【歯科技工士】
歯学部附属歯科技工専門学校から15人が受験し、11人が合格した。合格率は73.3% (58.3%)。全国の受験者は1433人、合格者は980人、合格率は68.4% (71.9%)。

JICAと海外協力隊で連携

国際関係学部と国際協力機構(JICA)は3月10日、JICA海外協力隊の連携派遣に関する覚書を結んだ。写真。同学部の学生、卒業生、教職員をマレーシアに派遣する。

大学の専門性とJICAの国際協力ノウハウを融合し、国際貢献や地域活性化を進めるとともに、学生らの成長に役立てるの狙い。本学が同覚書を結ぶのは生物資源科学部に次いで2例目。

派遣するのはマレーシアのポルネオ島北部に

障がい学生等の就職を支援
専門ハローワークと日本初の協定

本学は、就職活動に困難な課題を抱えている障がいのある学生等の就職を円滑にすることを目的に2月4日、新宿公共職業安定所の付属機関である東京新卒心援ハローワークと就職支援協定を結んだ。写真。

同ハローワークは大学

経常費補助金
5年ぶり交付に

本学は2月20日、日本私立学校振興・共済事業団から「法人ガバナンスの強化や再発防止策等さまざまな取り組みが進み、改善努力が十分に行われている」として、令和7年度の私立大学等経常費補助金を交付することの連絡を受けた。交付は5年ぶりで、取扱要領の規定により75%減額されて交付された。

今後継続して改善努力が認められた場合は、段階的な減額措置を経て、10年度から全額交付される見込み。

付属校ニュース

日大二高

278組の頂点に

4月5日開催の2026 SPRING決勝戦で、フォークソング部3年生の4人組バンド「ミアキス」が優勝し、278組の頂点に立った。同大会は関東圏内で最もレベルの高い大会の一つで、22歳以下の音楽を志す若者にとって憧れの舞台。優勝は本校史上初の快挙で、夢にまで見たチャンピオンベルトを手にした。

大垣日大高

選抜甲子園ベスト16

第98回選抜高等学校野球大会が3月に兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で行われ、本校は4年ぶりにベスト16となった。

22日の1回戦は近江高(滋賀)に延長10回タイブレークの末に2対1で勝利した。延長10回、公式戦初打席の代打・高橋遼さんが2点タイムリーを放ち、先発の竹岡大貴さんは完投勝利を収めた。高橋正明監督が就任後、甲子園で初勝利となった。

2回戦は26日に行われ、山梨学院高(山梨)に1対3で敗れたものの、選手とスタンドが一体となり戦った。

土浦日大高

4月25日に茨城県の神栖海浜運動公園で関東高等学校選抜大会が開催され、硬式テニス部が男子団体戦で2位に輝き、関東大会出場を勝ち取った。初戦からストレートで勝ち上がるなど、部員全員が一丸となって大会を勝ち抜いた。

日大二高

防災ゼミ優秀賞受賞

令和7年実施の町田市防災コンテストで、本校の防災ゼミが優秀賞を受賞した。高校2年生の「総合的な探究の時間」では、生徒の希望によってゼミ活動が選択できる。防災ゼミは、年間を通して防災について深く学ぶ。今年2年間の活動成果をまとめるコンテストに応募した結果、活動の先進性や主体的な取り組みが評価され、賞状と賞状を授けられた。

土浦日大高

硬式テニス部関東大会へ

4月25日に茨城県の神栖海浜運動公園で関東高等学校選抜大会が開催され、硬式テニス部が男子団体戦で2位に輝き、関東大会出場を勝ち取った。初戦からストレートで勝ち上がるなど、部員全員が一丸となって大会を勝ち抜いた。

土浦日大中等

日経STOCK入選

第26回日経STOCKリーグで、探究活動「ファイナンスゼミ」所属の5年生(当時)、石崎さん、小日向さん、都築さん、野澤さん、道徳さんのリポートが入選した。社会課題への鋭い分析と論理的な投資提案が評価され選出。同校はこれまで5年連続で入選を果たしている。今後も金融・起業教育をさらに深め、社会と対話し自立して未来を切り開く生き生きとした知性を育んでいく。

土浦日大高幼稚園 消防署を見学

年少組は2月10日、土浦南分署を見学した。大きな消防車と救急車に、園児たちは圧倒されていたが、一人ずつ救急車内に入れてもらい、とても興奮している様子だった。また、消防車が放水時に使用するノズルを持たせてもらい、その重さにビックリ。園に戻り「大きくなったら、消防士さんになるんだ!」と話す園児も。将来の夢につなげられた見学となった。

宮崎日大高

放送部が世界大会へ

放送部が3月15日実施の「キッド・ウィットネス・ニュース日本コンテスト2025」高校生部門でグランプリを受賞し、日本代表として10月の世界大会出場が決定した。

同コンテストは、映像制作を通して社会課題や地域の魅力の発信に挑戦するもの。放送部はSDGsをテーマに、企画から取材・撮影・編集まで部員自ら動画を制作し、高校生ならではの視点が高く評価された。世界大会出場は3度目となり、さらなる活躍が期待される。

土浦日大中等

日経STOCK入選

第26回日経STOCKリーグで、探究活動「ファイナンスゼミ」所属の5年生(当時)、石崎さん、小日向さん、都築さん、野澤さん、道徳さんのリポートが入選した。社会課題への鋭い分析と論理的な投資提案が評価され選出。同校はこれまで5年連続で入選を果たしている。今後も金融・起業教育をさらに深め、社会と対話し自立して未来を切り開く生き生きとした知性を育んでいく。

土浦日大高

硬式テニス部関東大会へ

4月25日に茨城県の神栖海浜運動公園で関東高等学校選抜大会が開催され、硬式テニス部が男子団体戦で2位に輝き、関東大会出場を勝ち取った。初戦からストレートで勝ち上がるなど、部員全員が一丸となって大会を勝ち抜いた。

土浦日大中等

日経STOCK入選

第26回日経STOCKリーグで、探究活動「ファイナンスゼミ」所属の5年生(当時)、石崎さん、小日向さん、都築さん、野澤さん、道徳さんのリポートが入選した。社会課題への鋭い分析と論理的な投資提案が評価され選出。同校はこれまで5年連続で入選を果たしている。今後も金融・起業教育をさらに深め、社会と対話し自立して未来を切り開く生き生きとした知性を育んでいく。

「N.教学イノベーション」で議論

健康のデザインをテーマに

学部や分野を超えて学習意欲が高い学生が参加した。広く「オナーズプログラム」と呼ばれるも学イノベーション推進プロジェクト」が2月27日、日本大学会館で開かれた。広く「オナーズプログラム」と呼ばれるも学イノベーション推進プロジェクト」が2月27日、日本大学会館で開かれた。



文理解、経済、商、芸術、国際関係、危機管理、生産、工、医、生物資源科、薬の11学部、大学院、通信教育部の学生計38人が参加した。今回の

テーマは「健康のデザイン」。講演の部では4人の講師が登場し、まずパルセロナ五輪の女子水泳金メダリストの岩崎恭子氏が、トップアスリート

方を講演。兼板佳孝副学長（医学部教授）が予防医学の視点から健康に欠かせない睡眠のメカニズムを解説した。

協議員会を開催

大学の将来像を議論

法人全体の運営や大学の将来像について本学の次世代を担う中堅・若手教職員から意見を聴くことを目的とする協議員会が、昨年12月25日に日本大学会館で開催された。写真。

道峰プロジェクト25」（同・経済学部の大川貴文さん）など5件のプロジェクト。審査に携わった芸術学部の星野裕教授は講評で「報告者全員が楽しそう

自主創造プロジェクト

5件の優れた成果を報告

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト「日本大学自主創造プロジェクト」の令和7年度報告会が3月16日、日本大学会館で開かれた。写真。



報告したのは、学生が自身の起業アイデアを競う「日本大学ビジネスプランコンテスト」（代表者・理工学部の長島健太さん）や、経済学部校舎屋上でミツバチを育てる「水

報告したのは、学生が自身の起業アイデアを競う「日本大学ビジネスプランコンテスト」（代表者・理工学部の長島健太さん）や、経済学部校舎屋上でミツバチを育てる「水と等の応募条件がある。

全日本選考会トップ通過

16年ぶり大学三大駅伝へ

全日本大学駅伝対校選手権大会の関東地区選考会が5月4日、神奈川県平塚市のレモンガスタジアム平塚で行われ、本学陸上競技部特別長距離部門が1位となり、2大会連続44回目の本大会出場を決めた。



力走する後藤玄樹選手（文理2年）

結果は3時間57分10秒のトップ通過となり、昨年の4位から大きく躍進した。これで、今年度は16年ぶりに大学三大駅伝（出雲、全日本大学、箱根）に出場することも決まった。

金井選手が6位入賞

ミラノ冬季五輪ショートトラック

各選手が健闘する中で、スケート・ショートトラックに出場した金井莉佳選手（通信教育部2年）は、女子3000メートルで6位に入賞するなど活躍した。



審査に携わった芸術学部の星野裕教授は講評で「報告者全員が楽しそう

付属校ニュース④

佐野日大高

第98回選抜高等学校野球大会に硬式野球部が出場した。同大会の出場は12年ぶり5回目となる。

和太鼓部の地域貢献 和太鼓部が3月17日、東北自動車道佐野SA上り線のオープニングイベントに参加し、勇壮な演奏を響かせ、来場者を魅了しました。

長野日大高 4泊5日で産学探究 本校は探究活動のフィールドを拡張している。その一つである位置電機と連携する学びのコンソーシアムでは、社員と共に4泊5日で、自身の探究テーマに没頭する活動を行い、サステナブルへの理解を深めている。

目黒日大高 ダンス部が全国優勝 ダンス部は4月18日に両国国技館で行われた「マイナビHIGH SCHOOL DANCE COMPETITION 2026 FINAL」SMALL部門で優勝を果たし、今年度最初の全国大会で好スタートを切った。

した生徒は、会社での実践に加え、信州大と連携して、視野を広げることができた」と学びを振り返った。

札幌日大高 札幌中高校生模擬国連 4月26日に札幌市内の中高校生有志が中心となって主催する第10回札幌中高校生模擬国連が、本校で開催された。

目黒日大幼稚園 春の公園で親子遠足 進級して1カ月が経ち、新しい関わりが作られ始めた5月7日、目黒区と品川区にまたがる林試の森公園で、年長親子遠足が行われた。

また公園内の草木や虫、池で日なたほっこするカメに興味津々となるなど、自然に触れる機会となった。最後にはクラス対抗のレクリエーションを行い、盛り上がりで幕を閉じた。

また公園内の草木や虫、池で日なたほっこするカメに興味津々となるなど、自然に触れる機会となった。最後にはクラス対抗のレクリエーションを行い、盛り上がりで幕を閉じた。

学生たちの活躍の場

日本大学には学生それぞれの興味に応じて選択できるゼミナールや研究室が多数あります。

本コーナーでは、学生たちの活動をピックアップします。

02

薬学部

環境衛生学研究室



予防の観点で健康を捉え 産業や生活の安全性向上に貢献

医学同様、薬学にも治療と予防という二つの観点があり、予防の観点から研究を行っているのが環境衛生学研究室だ。多様な化学物質は、医薬品や食品に应用されることで、治療や食品の安全性向上に役立つ一方、発がんやアレルギー疾患などのリスクもある。同研究室では加藤孝一教授の統括の下、中嶋順一教授、渡部浩平助教を指導教員として、環境中に存在する化学物質の毒性や安全性を確かめる測定方法を研究している。加藤教授は「有害な物質が含まれていても基準値以下なら問題ありません。予防の観点から言っても早く正確に数値を把握し、適切な対処をすることが重要です」と話す。

ヒ素とカビの測定に注力

主な研究対象としている物質は二つ。一つは、環境中に含まれるヒ素だ。ヒ素は土壌や水中に広く存在しており、田畑の野菜やヒジキなどの海藻類にも含まれている。例えばコメのヒ素の含有量は国際基準で定められているが、



生薬にあるヒ素を測定する実験

意外なことに現在、日本に基準はない。近年国内で新たな基準を提案する研究が進んでおり、同研究室では中嶋教授の下、より簡単で正確なヒ素の測定方法を開発し、コメの安全性の実証に貢献することを目指している。もう一つはカビ。カビの胞子は空气中に漂い、吸い込むことによってアレルギー症状や呼吸器疾患、重篤な場合は肺でカビが増殖する肺真菌症を引き起こす。渡部助教の指導で研究しているのは、災害時の避難所で発生するカビの影響だ。長期間保存されていた毛布や資材に付着したカビや、衛生状態が十分でない環境から発生するカビは、子どもや高齢者の健康リスクになる。この場合も事前の現地測定が疾病予防のカギを握る。そのほか、草木を原料とする生薬も生育過程や保存状態によりヒ素やカビを含むことがあるため、日々の実験研究を通じてゼミ生はさまざまな測定手法を身に付け、将来に生かしている。

論理性を究め、あらゆる分野で貢献

例年、環境衛生学研究室には4、5、6年次の学生それぞれ10人前後が在籍し、研究に取り組んでいる。薬剤師国家試験を目標とし、カリキュラムに沿って5年次の実務実習に臨むため、全員がそろって同じ研究を行う機会はほとんどなく、卒業研究のテーマも根本は同じでも設定や条件を変え、異なる研究に挑むことになる。

さらに卒業後の進路は、各人の興味関心により多岐にわたる。「ヒ素の測定研究を通じて、問題解決力が身に付きました」と言うのは小松田聖流さん(6年)。同学年の松本京香さんは「研究室のテーマとは異なりますが、先生が全力でサポートしてくれたおかげで放射線とがんの研究ができました」といい、2人とも将来は薬局薬剤師を目指している。加藤教授は「研究の根本は論理性を究めること。結論に向かってしっかりマネジメントできる力を養えば、どんな分野に進んでも貢献できる薬剤師になれるはず」と力強く話していた。

国際関係学部

01

藤城ゼミナール



夜間中学校でのボランティア活動で 国際協力の実践力を養う

藤城ゼミナールは「三島からの身近な国際協力」をテーマに、住民主体による開発、フィールドワーク、国際協力、多文化共生の研究に取り組んでいる。藤城一雄教授は、青年海外協力隊員、国際協力機構(JICA)の職員として、中南米地域の協力企画・実施、人材育成など約30年間にわたる経験を生かして指導している。学生が外国人と接する機会を増やすため、外国籍の生徒が多く在籍する静岡県立ふじのくに中学校三島教室(夜間中学校)での学習ボランティア活動を実現。座学と実践のサイクルによる知識と行動力を備えた人材の育成を目指している。

生徒に寄り添い日本語力を高める

藤城ゼミには3年生16人が在籍。毎週月曜日は全員でテキストを輪読し、基礎知識を学ぶ。さらに曜日ごとに3、4人のグループに分かれ、夜間中学校での学習支援ボランティアに参加する。内容は毎日の授業での学習支援と、月に一度行われるレクリエーションの企画と実施だ。

この夜間中学校には、主にフィリピンやパキスタン、中国等の国籍を持つ15歳以上の在留外国人48人が通っている。授業は日本の中学校の学習内容を扱っているが、年齢や経歴により日本語力や学力も異なるため、ゼミ生が生徒に寄り添い、教師の指導を補足して理解を助けることが第一の活動だ。

レクリエーションはジェスチャーや絵しりとりなどのゲームを行い、生徒の交流や日本語力を高めることが目的。同中学校の磯谷容美教頭は「自分と年齢が近い大学生にサポートされることでモチベーションが上がっており、とてもありがたい」と話す。「仲間と一緒にできるので、勉強もゲームも楽しい」(長坂ケイジロウさん19歳・3年)など生徒も喜んでおり、ゼミ生と生徒の双方にプラスになる、良好な関係が築けているようだ。



生徒に寄り添い授業をサポート

多様な学生がそれぞれの国際協力を目指す

今年9月にはフィリピンのセブ島で1週間の調査旅行を行う。また今後2、3年かけて、三島市に隣接する清水町の外国人居住実態を調査する計画だ。ゼミ生は3年次と4年次の2年間で調査結果をそれぞれの視点で卒業論文にまとめる。同町には外国人が多いと言われながら明確な分析はなかったため、この研究は地域社会の解明にも貢献することになる。

ゼミ生の目標は多種多様だ。相川諭子さん(国際教養学科3年)は「日本語教師の資格を取り、在日外国人のお手伝いをする仕事で生かしたい」と言い、佐藤法哉さん(国際総合政策学科3年)は「世界の貧困問題を学び、英語を生かす仕事に就きたい」と話す。「公的機関で外国人をサポートする架け橋になりたい」と願うのは上原菜月さん(同)。藤城教授は「多様な学生が集まっていることが当ゼミの特徴。海外での活躍に限らず、学びの生かし方も多様で良い。お互いに刺激し合い、化学反応を起こすことで可能性を広げてほしい」と、学生にかける期待を語った。

INTERVIEW 保護者に役立つミニ講義

親ができる闇バイト自衛術

「うちの子は安心」という思い込みをなくし 日ごろから相談しやすい環境をつくる

増加を続ける特殊詐欺の被害は、令和7年には約1423億円に達しており、その背景には闇バイトの急増がある。若者を狙った闇バイトに対しどう自衛したらよいか、危機管理学部危機管理学科の木村敦教授に聞いた。

SNSとAIの発達で手口が巧妙化

闇バイトの怖さは、関わった本人が金銭的被害を受けるだけでなく、知らないうちに犯罪行為に加担させられてしまうことにあります。事例としては、住宅の写真を撮って送る(空き巣や強盗のほう助)、銀行口座の開設や譲渡、携帯電話の新規契約(特殊詐欺の窓口)などで、年々多様化しています。

特に大学生では、夏休みを利用した海外展示会の臨時スタッフ募集など、注意が必要です。就職活動に使いたい、語学力を付けたいと思って応募したら、現地でパスポートを取り上げられ、特殊詐欺のかけ子を強要されたという事例もあります。

こうした闇バイトはSNS上の広告で「高額」「即日即金」「ホワイト案件」などと表示されているのが通例ですが、AI技術の発達により表現が巧妙化しており、一見して闇バイトと判断しにくいのが難点。媒体側で規制しているとはいえ、対処しきれていないのが現状です。とりあえず説明を聞き、おかしかったらやめようと思っても、気付いたら抜けられなくなっ

ていることが多々あります。少しでも怪しいと思った広告には一切触れないのが得策です。

子どもの自立心を尊重しつつ気を配る

SNSを通じて募集される例がほとんどのため、本人が自衛することが第一ではありますが、親として子どもを守るためにできることもあります。

まず、報道や警察庁の発表などから最新の情報や事例を把握しておきましょう。特に若者は何らかの理由でお金に困って手を出してしまう例が多いため、子どもの経済状況を把握しておくことが重要。そのためにも、日ごろからコミュニケーションを取っておくことが大切です。とはいえ、親目線で唐突に「闇バイトに注意しなさい」と言っても反発されるかもしれません。大学生としての自立心も尊重し、何かあったらすぐに相談してくれる環境をつくることができれば理想的です。

万一、闇バイトに関わってしまった、またはそういう恐れがあるときは、迷わず警察の専門窓口(#9110)に相談します。大事になるのを恐れて内々で解決することだけは避けてください。

もうすぐ夏休みが始まります。「うちの子は安心」だと思いきや「この夏はどうするの?」とさりげなく声を掛け、今後の予定を共有できるように心掛けましょう。



危機管理学部危機管理学科 木村敦 教授

きむら・あつし

平成14年本学文理学部心理学科卒。19年本学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了。博士(心理学)。農研機構特別研究員、東京電機大助教等を経て28年本学准教授、令和2年より現職。7年に東京都事業による闇バイト加担防止に関する啓発マンガを監修した。

マスクオフ時代の口臭サイエンス

原因により症状もさまざま 正しい知識を持って、適切なケアを

日本人はにおいに敏感で、一般成人の約8割が口臭に関心があるといわれている。仕事や日常生活を通じて人と接する機会が多い中、口臭とどう付き合ったら良いのか、松戸歯学部歯学科の有川量崇教授に聞いた。

において分かる口臭の原因

口臭には生理的口臭と病的口臭があり、生理的口臭は全ての人にあるもの。口腔内の細菌や食べかすなどの汚れによって発生する硫化水素が主な原因で、腐った卵に似たにおいがします。病的口臭は、歯周病になると発生するメチルメルカプタンが主な原因で魚が腐ったにおいに似ています。病状が悪化するとジメチルサルファイドを原因とする青のりのにおいになります。全身由来の病気の場合は、糖尿病はアセトン臭という甘いにおいになり、肝疾患や腎疾患の場合はアンモニア臭になります。口臭といっても原因によりさまざまだと覚えておくと良いでしょう。

唾液が口臭に影響していることも知っておきたいこと。唾液の殺菌作用と食べかすなどの汚れを洗い流す働きが、口臭を抑えます。起床時に最も口臭が強いのは、寝ている間は唾液がほとんど分泌せず、口内に細菌が増殖しているため。歯を磨き、朝食を取ると唾液が分泌し、口臭は治まります。昼頃、空腹で口が乾くと口臭が増し、昼食を取ると唾

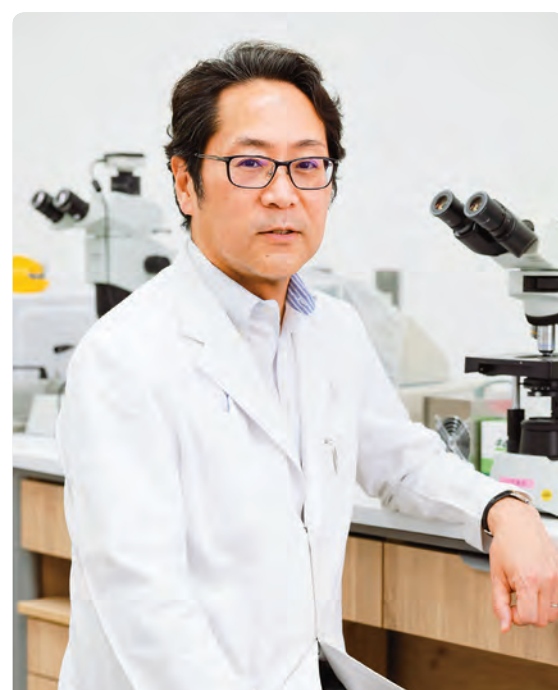
液が出て口臭が減る、というサイクルになります。

舌苔を除去し、唾液の分泌を促す

空腹や緊張、ストレスは唾液を抑え、口臭が強くなります。そのため梅雨の時期は気圧の低下によるストレスで口臭が強くなりがち。また唾液を出す唾液腺は、顔の筋肉の力でポンプのように唾液を分泌しているため、しゃべったり笑ったりすることでよく出るようになり、寡黙や孤立によって出にくくなります。コロナ禍のマスク生活で、無意識に口呼吸をしてドライマウスになったり、会話が減ったりしたことで自分の口臭に気付く人が増えたともいわれています。

誰にでもある生理的口臭を抑えるには、口腔内の細菌や汚れが付着した「舌苔」を取り除くことが一番。舌ブラシで定期的に除去するようにします。食事後と就寝前の歯磨きも効果的です。リモートワークで会話が少ないという方は、耳下腺マッサージをしましょう。指数本を耳の前(上の奥歯の辺り)に当て、10回ほど円を描くようにするとサラサラな唾液の分泌が促されます。歯周病や糖尿病が原因なら、当然病気を治すことが先決です。

口臭は本人が分からないこともあります。他人から指摘される前に、家族同士で気を配り、ケアする習慣を付けることをお勧めします。



松戸歯学部歯学科 有川量崇 教授

ありかわ・かずむね

平成9年本学松戸歯学部卒。同学部助手、専任講師、准教授を経て30年より現職。約20年前から口臭を研究し、人間のみならず犬の口臭にも詳しい。また100歳高齢者を対象とした訪問調査など高齢者中心の疫学研究にも取り組んでいる。

日本大学をもっと知る
探Q

学生支援

について知りたい

本学では、大学本部に設置された「日本大学学生支援センター」と各学部・通信教育部の「学生支援室」で、学生のさまざまな相談を受け付けています。

今回は学生支援についてお伝えします。



各学部の学生支援室、学生支援窓口の概要はこちら



A1 学生支援の体制について

相談を受け付ける窓口は各学部の学生支援室

各学部の学生支援室は、全ての学生の悩みや相談を受け付ける学生相談の部門と、障がい学生の支援を行う部門の二つを両輪としています。個々の相談については学部内で完結することが基本です。ただし転部により学部をまたぐ場合や、人間関係の都合上、学部内では相談しにくい事情がある場合は、大学本部の学生支援センターで受け付けます。また経済的事情や家庭内の事情など、学内だけでは解決できない内容には、自治体の支援組織など外部と連携する事例も増えてきました。いずれの場合も守秘義務を徹底し、安心して相談できる環境を整えています（【図】参照）。

A2 資格を持った相談員

専任のコーディネーターとカウンセラーが対応

学生支援室で最初の窓口となるのは、多くが精神保健福祉士、社会福祉士等の資格を持った



コーディネーターです。ここでの相談が学生自身の成長や変化を促す必要がある内容であった場合は、臨床心理士の資格を持つカウンセラーに引き継ぎます。カウンセラーは公平中立的な立場で学生と接するよう配慮されています。一方、生活支援や合理的配慮など、学生を取り巻く環境調整が必要な場合は、コーディネーターが学生や教職員と一緒に対応策を検討。状況によっては学生支援センターと連携し、解決策を考えます。

孤立感を感じる悩みや合理的配慮
さまざまな相談に対応

学生支援室で受け付けている悩みはさまざまです。近年、カウンセラーが担当する学生自身に関する悩みでは、学内で孤立して友人ができないなどコミュニケーションに関する相談が増えています。またコーディネーターが担当する相談でも合理的配慮に係る悩みから経済的困窮までさまざまなものがあります（【表】参照）。経験豊富な専門家が対応していますので、困ったときはためらわず、相談に来てください。

A3 障がい学生サポートの実例

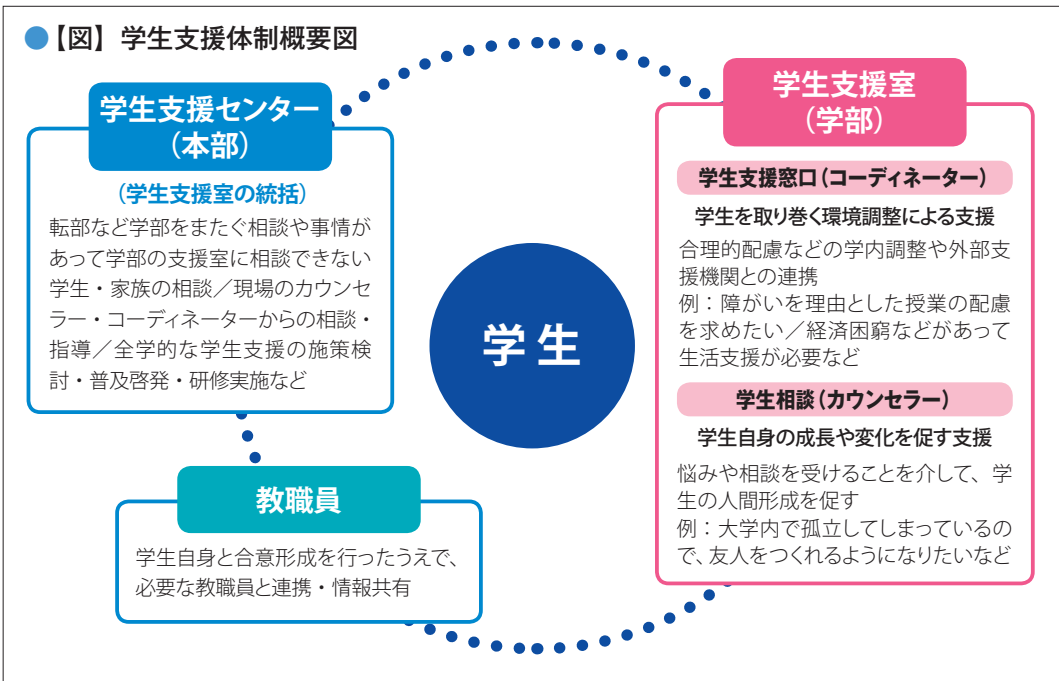
聴覚障がいの支援に有償ボランティアで対応

三軒茶屋キャンパスでは、聴覚障がいのある学生の申し出により、教員の説明が手元のタブレットで文字起こしされる音声認識アプリを導入。しかし誤変換の修正や専門用語の登録などが必要となり、学生によるピアサポートを始めました。無償ボランティアは質の担保や人材募集が難しいのが実情。有償化によって人材確保と責任ある対応が可能となり、サポートを利用する学生も「授業の理解が深まった」と話しています。



音声が即座に文字化されタブレットに表示。聴覚障がい学生の授業サポートに

【用語解説】合理的配慮とは
合理的配慮とは、障がいのある学生が他の学生と平等に授業や学生生活に参加できるよう、一人一人の状況に応じて可能な範囲で必要な変更や調整を行うことを言います。校舎の段差解消や筆談対応などがあります。令和6年4月1日より、私立大学を含む全ての事業者で義務化されました。



●【表】 学生から寄せられた相談事例

1. 合理的配慮支援	
メンタルヘルスに係る 修学上の問題	抑うつ・不安障がい・パニック障がいのある学生（「授業に出たいが出られない」「発表やグループワークが怖い」） 発達障がい（ASD・ADHD）のある学生（スケジュール管理の困難、人間関係がうまくいかないことによる孤独感）
情報保障の必要性	聴覚障がいのある学生へのPCテイクや、UDトーク（音声認識ツール）等による文字通訳など。
予期せぬ病気や障がい	病気の手術、事故による高次脳機能障がいなど。
LGBTs（性的マイノリティー）へのサポート	戸籍上の性別ではなく、自認している性別で学校生活を送りたい。
教職員の理解・啓発の必要性	合理的配慮を求めても「他の学生にとって不公平だ」と断られてしまうなど。
2. 家庭・経済面などの環境的要因	
ヤングケアラー・家庭内不和	家族の介護、親からの虐待や過干渉、絶縁状態など、学修に専念できない背景。
経済的困窮	学費や奨学金に関する悩み（学費や生活費に充てるためアルバイトを入れ過ぎ、成績が振るわず奨学金の継続ができないなど）。

Comment



学生支援センター
使わないともったいない
気軽に来てください
主任カウンセラー **有馬 慧**

学生支援室は、全ての学生が利用できる施設です。「良くないところを治す」ではなく、今の状況を変えて、もっと自分らしい学生生活を送るための相談窓口だと考えてほしい。むしろ使わないともったいないという気持ちで、気軽に来ていただけたらうれしいです。



学生支援センター
本人の気持ちに寄り添い
安心できるサポートを
主任コーディネーター **榎野 雅文**

学生だけでなく保護者も相談できるということを伝えたいです。本人がどうしても行きづらいという時には保護者と一緒でも大丈夫です。入口は全員が同じですし、最初から障がいに原因があると決めつけず、望ましい解決方法を一緒に見つけられるよう心掛けています。



三軒茶屋キャンパス
自分の力を発揮できる
環境をつくりま
す
コーディネーター **川原 樹**

大学は社会に出る前の最後の準備期間です。ここでしか学べないことを十分に吸収し、力を発揮できる場所であるよう、教職員と協力してサポートしています。大学生はもう成人なので、本人を最優先に尊重する環境を、保護者と一緒につくっていきたくて考えています。